



経堂バプテスト教会

教会短信

2009年6月7日

No. 27

牧師 間瀬 善彦

「わたしたちは知っているのです。苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということ。希望はわたしたちを欺くことはありません」(ローマ 5:3-5)。

たまにカゼなどの病気にかかって床に伏せるような体験をすると、健康のありがたさに改めて気付かされます。毎日健康を与えられて教会で働かせていただけることは当たり前のことではなく、神の恵みなのだとつくづく思われます。

パウロは初めクリスチャンたちを迫害する人でしたが、復活のイエスに出会って神の御言葉を伝える者へと大転換させられた人です。神の御言葉を始めてヨーロッパに伝えることになった使徒パウロは、最初その行く道を2度妨げられたということが聖書(使徒言行録 16:6-10)に記されています。「彼らはアジア州で御言葉を語ることを聖霊から禁じられた」、「ビティニア州に入ろうとしたが、イエスの霊がそれを許さなかった」とあります。この原因については、パウロは病気になったためにその治療に専念しなければならなかったという説がありますが、真実はわかりません。ところで、パウロは神のためにと自分で自分の計画した道にどうして進めなかったのでしょうか。彼は悩んだのでしようが、結局これを神の導きと信じました。そして幻の中で、「マケドニア州に渡って来て、わたしたちを助けてください」と言う言葉に導かれて、ヨーロッパに伝道に行くことになりました。神の福音がヨーロッパ、そして世界へ伝えられていく端緒となったのです。このことはわたしたち人間の計画していることと神の計画していることは違うのだということを示されます。

神の計画は、わたしたちの将来、未来までも見通されます。私たちの人生はわたしたちの思惑を超えて、様々なことが起こります。ましてや、今は百年に一度と言われる経済危機の真ただ中です。この影響でつらい立場に立たされ、これからの人生計画が大きくなるってしまったという方もおられるでしょう。もしそのような方がおられましたら、困難の中にも、神は必ず良き日を用意してくださっていることを信じて、希望を持って耐え忍んでいただきたいと思います。

他者と共に生きるとは？

ある烈しい雨の降る夕暮れに、バスの乗車口でお客さんと運転手さんとの押し問答が続いていた。

窓から覗いてみると杖をついて首からシルバーパスらしいものをぶらさげた80代のご婦人が「昨日、ここから出るバスに乗って〇〇病院に行き、そこへ財布と傘を忘れてきたので取りに行きたいんですよ」。

「何度も言いますが、このバスはその病院へは行きません」。

運転手さんは急に声を荒げるとドアをピシャリと閉め、バスを発車させてしまった。そのご婦人はずぶ濡れになって途方にくれて立っていた。

この駅前の周辺には、いくつか始発のバス停がある。そのどれかにご婦人の言う病院行きのバスが停まっていたのを私は見たことがある。降りて一緒に行って探してあげようかしら、と私は腰を上げかけたが、「ま、いいか」と、また腰を降ろしてしまった。この誰もが忙しい世の中、いちいち他人のことなんか面倒みていられない。私は、家に帰ればやりたい事が山積みになっている。

だが、あの雨に打たれたまま悲しそうに立っていたご婦人の姿が家に帰ってから目にも焼きついていて。聖書の中のルカによる福音書10章27節に、「隣人を自分のように愛しなさい」という教えがある。私はその夜、反省し、涙して祈った。

「イエス様、私は困っている人に手を差し伸べることができませんでした。私はダメな人間です」。

それから、二年後の6月のある晩、低気圧が発達して台風のような強風が吹き、烈しい雷雨となった。家の近くでバスを降りると、後ろからだれかがついて来る。振り返ると、細身で小柄な70代のご婦人が強風に押し倒されそうになって歩いていた。「お家はどこですか？ お送りします」。私はそう言いながら、いつのまにかご婦人に手を差し伸べていた。その手をご婦人がしっかりと握りしめてくれた。稲妻と雷鳴の中を20分ばかり歩いてそのご婦人の家に着いた。私はそのご婦人の美しい笑顔は今でも忘れない。二人で支えあったこの喜び！ 人と共に生きるとは、本当はこういうことかもしれない。

「あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みな仕える者になりなさい」

(マタイ福音書20章26節)。

今の若い世代は、かつてほど立身出世を望まなくなっているとか。社会の活力という点では寂しさもありますが、ある意味では健全なのかもしれません。上記のことばは、キリストが「偉くなること」について語ったもの。偉さは人間的な力(地位、財力、美貌など)によってではなく、周囲の人に仕えることを通して培われると言っています。それはキリスト自身が実践したことでした。人に仕える意識の中から生まれる心づかいや振る舞いは、周囲の人を和ませるだけではなく、人間関係をスムーズにさせること請け合いです。(「聖書の品格」いのちのことば社)

6月21日(日) 父の日



6月第3日曜日は父の日です。

日頃、一所懸命に社会で働いてくださるお父様方に感謝する日です。

この父の日も聖書からきています。聖書、出エジプト20章12節「**あなたの父母を敬え**」とあります。教会では、子供のいない壮年の方や、結婚をされていない壮年の方も同様に日頃の働きを覚えて、礼拝の中で感謝する時間を持ちます。

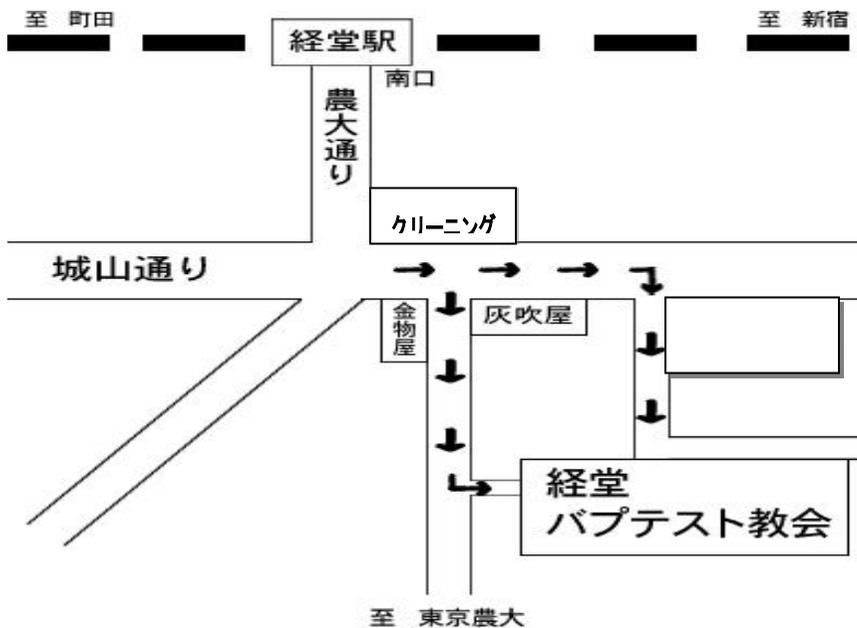
この日礼拝にいらっしやいませんか。お待ちいたしております。

6月28日(日) 神学校週間

教会では、礼拝の中で神学校とそこで学ぶ神学生を覚える日を神学校週間と言います。この日は礼拝の中で神学生がお話をしてくださいます。神学生の話聞いてみませんか。お気軽にいらして下さい。お待ちいたしております。

日曜日は教会へ集会案内

主日礼拝	日曜日	午前 10時30分～11時30分
教会学校	日曜日	午前 11時45分～12時30分
	青年科・成人科	
聖書を学ぶ会	火曜日	午後 1時30分～2時30分
聖書研究・祈禱会	水曜日	午後 7時30分～8時30分



経堂バプテスト教会

牧師 間渕 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3427-2352

当教会は、エホバの証人、モルモン教、統一協会とは一切関係ありません。